

領地と記せれば其地なるべしと云るみな由ありて聞ゆれど遠江式社考に谷口村の敬満森と云に小社ありこれなる事疑なしとみえ注進狀にも此地と定めたるに従へり又神名帳古本傍注に敬満神社一名事任大明神とあるは甚しきあやまりなれば論ふまでもなし

特選神名牒

駿河國二十一座 大一座小二十一座  
○今静岡縣管下

○益頭郡四座 並小

神神社 稱三輪大明神(明細帳なし)

祭神 大物主命  
オホウケミ

神位 清和天皇貞觀十五年八月四日丙申駿河國從五位下美和、天神授從五位上、陽成天皇元慶二年五月十七日壬子授駿河國從五位上美知天神正五位下

祭日 十一月二午日

社格 郷社

所在 三輪村字杉(志太郡岡部町大字三輪)

鮑波神社

祭神 少彦名神

今按駿河國式社備考に近世藤枝若王子郡等の地おしなべて鮑波の一郷上下の地なりけん今藤枝驛本町に涌泉あり其下流清水川と云此益津村にも涌泉あり泉森と云あり想ふに郷名は泉の涌出るに依れるかと云によりて考ふるに祭神少彦名神相殿に潮織津比咩命蛭子命天之忍穗耳命と

駿河國 益頭郡

云るは總國風土記の説なれば頼く信がたきを相殿潮織津比咩命はこの涌泉にも由あり川關明神と云にもかなひて聞ゆれば潮織津比咩命を祭れるならん歎されど今姑く舊説に従ふ

祭日 十月十九日

社格 郷社

所在 益津上村 鮑波(志太郡藤枝町大字益津町)

今按往古は山下に鎮座ありしを中古山上に移さる正徳五年の棟札に益頭郡益頭庄鮑波神社川關大明神と記せれば此時に兩社相殿となれるか詳ならず一説に志太郡時が谷村の藏王權現社邊に鳥居が崎など云字もあれば是ならんと云へど信がたし

那閉神社

祭神

今按社傳祭神事代主命とあれどこは偽風土記の説を襲へる説なれば信がたしされど那閉神はいかなる神と云事傳へなければ考ふべき由なし

祭日 九月十九日

社格 村社

所在 濱當目村 那閉(志太郡東益津村大字濱當目)

燒津神社 稱入江大明神